

令和5年度デジタル田園都市国家構想交付金(推進タイプ)事業に関する資料

事業名	銚子に学び、集う！歴史文化とジオパーク！銚子半島まるっぽ博物館化事業	
総合戦略記載箇所	基本目標2 新しいつながりを築き、ひとの流れをつくる 1 魅力ある観光地づくり	
交付金対象事業期間	令和4年度～令和6年度(3年間)、以降は自立自走	
総事業費(予定)	75,000,000円	
令和5年度事業費(実績)	24,671,581円	
【KPI】		
指標名	目標値	実績値
造成したプログラムを使用した市内宿泊者数	75人(令和5年度)	86人
造成したプログラムによる誘客数	250人(令和5年)	1,026人
パートナーシップ構築したプレイヤー数	10人	9人
拠点施設への来館者数	1,675人(令和5年度)	4,189人
【事業効果】		
・地方創生に効果があった		
【事業概要】		
銚子資産を活用した体験プログラムの造成、ストーリーに沿った市内周遊型のツアーコースの開発・販売により、旅行者の滞在時間の延長を図り、日帰り客から宿泊客へのシフト、宿泊日程の延長、又は再訪につなげていく。文化財の一括管理とそれを活かした展示施設を整備し、ツアーコースの拠点として活用するほか、事業終了後、継続的に商品開発や販売を行うための組織を立ち上げ、地域内外でのPRや事業展開を強化するための連携体制の構築・強化を図るとともに、自立自走による事業の推進に向けた人材育成を図る。		
【事業成果】		
【銚子資産とは】		
「銚子市文化財保存活用地域計画」(令和2年度文化庁認定)において、文化財の類型や指定・未指定に関わらず、本市の歴史文化・自然に関連する全ての地域資源を「銚子資産」とし、銚子資産を取り巻く周辺環境を含めて総合的に把握し、保護していくものとした。また、「銚子資産」は「銚子らしさ」を現す財産でもあり、これらを観光資源として活用することで、本市の歴史文化・自然の魅力を発信することにより「銚子ブランド」の向上にも貢献していくと位置づけている。		
1. 教育旅行の商品開発及び販売促進事業(5,000千円)		
①旅行商品の開発		
「教育旅行」は、教育上の目的で実施される旅行で、学校行事として行われる修学旅行や宿泊学習等であるが、本事業でいう「教育旅行」とは、その対象を児童・生徒に限らず、老若男女、各世代に応じた「学び」の視点を備えた「旅行」という意味で用いている。		
ここ数年、市外からの小中学校のジオパーク見学学習の受入が増加傾向にある。そのため、昨年度実施した「銚子資産を活かした教育旅行等戦略提案業務」で把握した教育現場ニーズに基づき、本市が求められる「学び旅」の目的地に必要な取組(学校向け教材資料作成・ホームページのポータルサイト化に向けた提案など)を重点的に行った。		
プログラムとして訴求しうる体験コンテンツの開発やその情報を一つのプラットフォーム上に掲載していくことは、学校関係者のみならず、広く必要な情報発信の形となり、有効に機能すると考えている。		
②モニターツアーの実施		
①の整理を基に教育関係者を中心とするモニターツアーを行った。		
本市で何を学ぶことができるかというテーマ設定が重要であるという考えから、既の実績があるジオパーク活動の分野の拡大を図りつつ、歴史文化、SDGs関連などのコンテンツも訴求でき、地域の人々との「交流」といった観点も入れて、テーマを絞り込んでいった。今回は「環境」「歴史文化」「自然」の3つのテーマで、本市で学べるコンテンツを体験し、今後教育活動に取り組んでいくために必要な視点や課題などについて指導や助言を得ることができた。		

2. 学びの創出事業(4,000千円)

「銚子市文化財保存活用地域計画」で設定した高田川流域地区文化財保存活用区域は、区域内の銚子資産の保護活動に取り組んでいる3つの市民団体が存在する。この3団体は連携して、地域住民をはじめとする様々な対象に対して「まち歩き」を企画し、自らが案内役となって開催し、魅力を発信している。これらの活動に対して、参加者によりわかりやすく理解を促すために、中島城3Dモデル制作及び余山貝塚出土縄文土器ペーパークラフトを制作した。

3Dモデルについては、立体的に土地の形状を目にすることができ、説明への理解度が深まる。また、地域の文化財を教材等として使用することは、歴史を身近に感じることができ、地域文化への理解促進と郷土愛の醸成にもつながり、地域を伝える意識が芽生えることになるとと思われる。

3. プロモーション(900千円)

教育旅行に強みを持つ旅行会社関係者との意見交換会を開催するなどして、企画書作成や学びのテーマ設定等について、指導、助言を得ることができた。

4. 運営体制の整備(2,900千円)

①パートナーシップ制度の構築

地域プレイヤー等との「学び旅」の分野で協業できる仕組みを構築するための情報収集や課題の整理を行い、地域プレイヤーと連携した情報発信を可能とする体制を整備するための計画づくりを行った。地域プレイヤーの中には、同様の活動を実施したいという意識を持つ方もおり、今後、個別に実施していくことなく、情報を共有し、連携が図れるよう事業を進めていく予定でいる。

②ガイド養成

「学び旅」の推進にはガイドが必要不可欠である。しかし、近年、ガイドを目指す人材が非常に少なく、既存のガイドも高齢化しているため、ガイドの裾野を広げていく必要がある。そのため、初級者向けガイド養成のテキストを作成するとともに、上級ガイドの育成を目指し、インタープリター養成講座を実施した。

既存のガイドの中にも、さらに上のガイド技術を学び、ワンランク上のガイドとして活躍をしたいという思いがある方も一定数いることを把握した。その人たちとともに上級ガイドとして活躍できるように養成しつつ、ガイドを担う人材の確保が大きな課題である。

5. 事務費(83千円)

事務用消耗品等購入

6. 拠点整備事業(11,990千円)

昨年度、作成した「銚子市『学びの拠点』施設整備計画」に基づき、展示室の設計や展示什器を購入した。ジオパーク・芸術センターを資料の一元管理と地域内外の人に向けた銚子の歴史文化・自然の学びのゲートウェイと位置づけ、様々な市内周遊型ツアーを創出した際、各コースのスタート地点又はゴール地点(振り返り)の拠点として活用することを目指している。また、雨天時に長時間滞在できる施設が少なく、天候によるツアー中止のリスクを軽減し、雨天時であっても、誘客ができる旅行商品の開発につなげることが可能となる。

さらに、銚子の歴史文化、自然に関する情報を収集できる施設として、新たな銚子の魅力を分かりやすく伝えることができ、交流人口や関係人口の増加に寄与することにつなげる。